

## ワンピース (ONE PIECE)

少年マンガ「ワンピース」は、大変な人気そうですね。

昨年11月に単行本が64巻まで発行されましたが、これまでの販売部数は2億5000万部を突破しており、64巻は初版発行部数400万部といわれていますから、驚くばかりです。また、この作品は、日本国内のみならず翻訳本が世界30カ国以上で販売されているそうで、改めてマンガの力に目を開かされる思いです。

あるテレビ番組の情報によると、ワタミの渡邊美樹社長も「ワンピース」を感激しながら読んでいたらしいとのことで、柔軟な頭の持ち主は違うなと感じ入っています。

私の方はといえば「ワンピース」の存在など知るよしもなく、マンガ大好き人間の娘（といっても、既に結婚して独立しているのですが）に聞いてみました。すると、娘は当然のごとく知っていて、「その本なら家にあるので、面白いから読んでみたら」と勧められ読むことにしました。もっとも、娘がいう家というのは私の家のことで、彼女が嫁に行く時に、自分の部屋に山のようなマンガ本をそのまま置いていったものです。捜してみると何と49巻もの「ワンピース」が出てきて、驚くというより呆れています。

この「ワンピース」は、海賊王を目指す少年モンキー・D・ルフィが、仲間と共に伝説の海賊王G・ロジャーが遺した「ひとつなぎの大秘宝（ワンピース）」を求めて、幾人もの海賊達と激しい闘いを繰り広げながら冒険の航海を続けていくという物語で、夢を追い続けることの大切さ、仲間達との友情といったテーマが随所に描かれています。

マンガといえば、子どもの頃に読んだ「少年サンデー」とか「少年ジャンプ」を思い出します。今ではマンガを読むなどということは殆どありませんので、久しぶりのマンガ本でしたが、読み始めるとこれが結構面白い。子ども向けだろうと思っていましたが、なかなか馬鹿にしたものではありません。

話そのものは荒唐無稽な海洋冒険もので、いたるところ闘いと破壊のシーンが続きます。そのため、そういうところに目がいて「如何なものか」と感じ

る人もいると思われませんが、展開の早さ、メッセージの強さは流石だなと感じます。

「海賊」はいうまでもなく犯罪者だし、海の厄介者ではありますが、誰しも、長い人生の中で、一度位は世の中の決まり事やしがらみから解放されて、波瀾万丈の旅をしてみたいという願望を持っているのではないのでしょうか。そんな思いを、主人公のルフィに仮託して読んでいる自分を感じます。

作者の尾田栄一郎氏は「少年の日に憧れた海賊達は過去の記録書には記されていない。どうやら、自分達の冒険があまりにも楽しすぎて後世に名を残す事を忘れてしまったらしい。まったく、海賊って人種は、これだから困る。」と述べています。ですから、彼も「ワンピース」をとことん面白く描こうとしているのかも知れません。

最近の私は、「ワンピース」を1冊持ち込んでお風呂に入るのを、楽しみにしています。(塾頭 吉田 洋一)